

## 『八期会（薩摩の歴史）愛好家リンク』です。 2016年8月スタート

おはようございます。西山です。

「八期会歴史愛好家の皆さん」と呼びましたか？

歴史とは古（いにしえ）と今を結び今を語るものかもしれません。

「原口先生の資料」なるもの私にもお送りいただければ幸いです。

以前、崎元・柴田くんとともに「生麦事件」の現場と、今は閉館した「生麦事件参考館」を訪れ。熱血あふれる浅海館長の話を伺いました。

薩英戦争の謎は、それまでも何人かの外国人が殺害されていたのになぜ、単なる一旅行者にすぎなかったリチャードソン殺害だけに1. なぜ、幕府は、多額の賠償金を要求に応じたのか2. なぜ、鹿児島まで艦隊を派遣したのか3. なぜ、1日だけの戦いで引き上げたのか。

ほかにも、いろいろ思うことはありますが他日に譲りたいと思います。西山 和宏

**Subject:** Re: 『第二次征長』切り抜き

八期会の歴史愛好家の皆さん 隈元です。

大石くんの新聞記事に呼応して東京から原口先生の資料までメールしてもらってありがとうございます。

早速読んで、印刷もしました。

数年前から鹿児島では明治維新150年(平成30年・2018年)に向けてカウントダウン事業が行われています。

生麦事件をきっかけに薩英戦争が勃発し、そのとき英国の船や大砲を見た薩摩人が日本が世界に立ち遅れていることを知ったことも、明治維新の大きなきっかけの一つとなったということは、皆さんもご存知の通りです。

そのようなことから、鹿児島ではこの数年カウントダウン事業の一環として毎年、講演会や展覧会が開催されています。大石くんメールの南日本新聞のこれらの記事も「生麦事件」「薩英戦争」「薩長同盟」などシリーズ化されてこの何年かにわたりそれぞれ数回の記事として掲載されています。私もそれらを読むたびに初めて知るばかりで、勉強不足を痛感しています。

薩摩の歴史の奥深さを感じながら、寄る年波による頭脳の衰えや、記憶力の減衰と戦いながらどこまで勉強できるか、焦り気味の毎日です。(苦笑)

『第二次征長』切り抜き送付 ありがとうございます。西山です。

日本の歴史で、最も重要な時期です。

現代に相通ずるところがあるかもしれません。日銀 黒田総裁のデフレ脱却物価2%アップは2年計画が3年半経っても道半ばと言う。マイナス金利というのでいくらでも借りたいがどこへ行けば貸して貰えるのでしょうか？

いくらでも膨らむオリンピック開催コスト原発を止めます災害が起こると想定外優秀だと思われていたと言うよりも俺たちは優秀だと言って人たちがさほどでもなく、馬脚を現しているのは幕末の幕府のようです。

送付いただきました切り抜くを一読して今更ながら感じました。西山 和宏

そのようなことから、鹿児島ではこの数年カウントダウン事業の一環として毎年、講演会や展覧会が開催されています。大石くんメールの南日本新聞のこれらの記事も「生麦事件」「薩英戦争」「薩長同盟」などシリーズ化されてこの何年かにわたりそれぞれ数回の記事として掲載されています。私もそれらを読むたびに初めて知るばかりで、勉強不足を痛感しています。

大石さんこんばんは、関西の木場です。

資料送っていただきありがとうございます。

薩摩維新のことについて もう すこし 涼しくなったら 勉強します。

原口 泉さんの“維新の系譜” 幕末の大転換は、なぜ、薩摩から始まったのか？

薩摩藩 3人の功臣たち その中で 小松帯刀について・・・など

あまり 豊かでない薩摩藩が 活躍できた裏には 密造金？の話、坂本竜馬を通じ長崎 グラバー アヘンを取り扱って

大儲け この人から 金を引き出したのではないかと海援隊との関係など 薩摩と土佐、長州、肥後の合流？

以上 いろいろあります。 ではまた 木場祥雄

大石さんこんばんは

いつも 明治維新時代の郷土史関連記事送っていただきありがとうございます。

パソコン 変更したため 一部添付資料見れないのがあります。

先般の新聞記事 全体の感じは つかめますが 一文字一文字ははっきり読めません。

全体の流れ、感じをつかみながら 読ませてもらっています。PCも おっつけ改善できるものと思います。

以上 メール連絡 御礼まで

木場 祥雄

○新聞の切り抜きをありがとうございます。関東の中間です。

歴史は、書かれてはじめて歴史になる。と 私中間 が書き留めたメモにありましたので記します。歴史と

いうのは、自然のようにもとからそこにあるものではない。それは、いわば芸術作品のように、意図的につく

られたものなのである。起こったことすべてが歴史になるものではない。そうではなく、ある時代のどこかの歴

史家が、これは語るに値すると判断したものだけが歴史になるのである。その意味で厳密に言えば、歴史は現

実ではない一種のフィクションである。が、歴史は限りなく興味深いものである。

○暑い日が続いていますが、お元気にお過ごしのことと思います。西山です。

留魂碑を訪ねてから はや半年近く経ちました。その間 あれやこれや かき集めたものをお送りします。明治維新から約 150 年、その 150 年は我々の年齢の倍にしかすぎません。と思うと、それほど昔のことではないような気がしています。なにはともあれ、元気に この歴史を生き楽しんでまいりましょう。

おはようございます。十分に読めました。文末に「西郷の前に幕府方の人物が現れた」とありますが、それは勝海舟でしょう。

西郷隆盛と勝海舟の 1 回目の会談です。この会談が、明治維新までの路線を決定づけました。非常に重要な会談です。

### (大石よりコメント)

すごい台風(鹿児島で免疫になっておられる方にはげげな台風)に見舞われましたね。

鹿児島八期を代表してお見舞い申し上げます。

テレビの女子アナウンサーのオーバーな悲鳴程と画面の様子は若干温度差があるようにも見えましたが都会の被害は川の氾濫が一番怖いですね。

1993(平成5)年の86水害も鹿児島市の中央を流れる甲突川の氾濫が大被害をもたらしました。都会はがけ崩れ等による家屋の決壊それに伴う人的被害が余りないのがうらやましい??かぎりです。

さてあの86水害の年—平成5年—私たち33年卒が卒後35年目の同窓会幹事をつとめました。あの大水害の翌日にサンロイヤルホテルに集まった40名の同期の仲間で旗揚げした『玉竜八期会』も大きくふくらみ楽しい思い出もたくさんつくりました。そして今年で23年目(同時に喜寿の年)を迎えました。今年はいろいろな意味で大きな区切り(節目)の年でもあります。11月5日のメモリアルパーティに参加の皆さん、残念ながらそれぞれの理由で参加まならなかった皆さんとまず今回の全国規模の集まりは締めにしたいと思っています。

今後は地区ごとに仲良かったのしい八期会が米寿、白寿まで続くことを祈念します。

そして、たまには本部から声掛けして『ちいさな旅』でもしたいものです。

変な締めになりましたがメールもパソコンからスマホのSNS(ラインやフェイスブック)に代わってきました。

この通信はぼくがキーボードを打てる限りぼちぼちでも続けていきたいと思っています。

○大石様

幕末・維新の頃 長崎は華やかな表舞台のひとつ 今 長崎は人口減が顕著な地域のひとつ^^ やはり壱岐 対馬 五島 … 離島を抱える県の悩みでしょうかね。 情報提供感謝です。 長崎 諫早 森永

○大石さんこんばんはいつも 資料送っていただきありがとうございます。

今回は きれいに コピー取れました。先日送っていただいた 西山さんの“西郷隆盛の思いを籠めて留魂碑”(41ページ)もコピー取れましたのでゆっくり読んでから メールしようと思っています。

これは 大作ですね!(PCを変えてため 添付資料がうまく コピーできない状態が続いていました。対策考え うまくいくようになりました)

明治維新を考えると 長州、土佐の動きも勉強しなければ 薩長同盟とお金の流れ、坂本龍馬を考えると 亀山社中 のちの 海援隊あたりも… さらに 長崎グラバー?バックアップなど いろいろと 広がってきます。少し 涼しくなつてからにしたいと考えます。あなたから メールしてもら う 資料もありがたく 読ませていただきます。木場 祥雄

○大石さんこんばんはつもありがとうございます。コピー うまく取れ 読めます。(文字も少し 大き目)

最近 画面で 文字を見るのは すぐ 目が疲れて? かすれてきます。コピーとり 紙面で 見なければ…と思うようになりました。今回に グラバーのことも出ています。

ほかに “新説・明治維新”という 西 鋭夫著 (スタンフォード大学フーヴァー研究所教授)も読んでいます。では また 御礼まで 木場 祥雄

○大石さんこんばんは資料送っていただきありがとうございます。薩摩維新のことについて もう すこし 涼しくなつたら 勉強します。原口 泉さんの“維新の系譜” 幕末の大転換は、なぜ、薩摩から始まったのか? 薩摩藩 3人の功臣たち その中で 小松帯刀について…など

あまり 豊かでない薩摩藩が 活躍できた裏には 密造金?の話、坂本竜馬を通じ長崎 グラバー アヘンを取り扱って大儲け この人から 金を引き出したのではないか海援隊との関係など 薩摩と土佐、長州、肥後の合流?以上 いろいろあります。ではまた 木場祥雄

●稲森くん

2018年の大河ドラマ「西郷どん」をテーマに(八期歴史好き仲間)で情報(意見)交換しています。

というより2年後の明治維新150年を見据えて幕末の薩摩藩の志士たちの史実を学び語り合い、郷土を知るのもいいことではと思い南日本新聞の関連記事などを切り抜いて送っています。

返事も感想も私見もしなくて結構ですので削除しないでフォルダにでも仕舞っておかれたらいかがでしょう。

○関連記事の送付ありがとうございます。

おかげで 18 年の大河ドラマ放送をより一層楽しみに待つことができます。

さっそくフォルダを作成して保存いたしました。

これからも楽しみにさせていただきます。

稲森

○大石様

西郷さあは偉大過ぎて演じ切る役者がいるか そこが問題です^^

前に見た 西田西郷さあは 西郷さあじゃなかった^^

それと脚本家のイメージする西郷さあは 我々とは違った西郷さあかもしれないと心配です。

いらぬ心配かも・・・ 長崎 諫早 森永

○大石様

堤さん 馴染みがありません なんか西郷役を辞退したとかの記事もありますね。

幻の(夢の)キャスト

西郷さあ・・・若山富三郎 Or 勝 新太郎

大久保利通・・・草野大悟

島津斉彬・・・榎木 孝明

大山綱吉(県令)・・・西郷輝彦

坂本龍馬・・・役所広司

重厚な布陣のように思いますが^^

明日 11 日は大竜のノリ先生の命日と思いますが お墓はどこにあるのでしょうか遠くからお参り お祈りしたいと思います。

長崎 諫早 森永

○大石さんこんばんは

奈良迫さんのプログ 初めて 読みました。いろいろな話題 盛り沢山 興味深く 読ませていただきました。全部読むには かなりの時間 かかりそうです。18年の大河ドラマ 楽しみです。取り急ぎ 連絡拝受 御礼まで

木場 祥雄

追伸 明治維新 150年 鹿児島だけでなく 鹿鳴館、華族などいろいろなことが 話題となっています。

明治維新の薩摩活躍の資金？ 奄美大島などの砂糖が 大阪へ密輸され 高価な金額で販売され資金源となったとか？ 産業、資源に乏しかった薩摩藩が なぜ 活躍できたのか・・・ あなたの情報メールにより 西山さん 隈元さんなど 歴史に興味を持っている人たちのつながりによる情報交換を読むことにより もっと興味深く 勉強せねば・・・という 気持ちになってきています。

○原作は作家の林真理子、西郷さんと明治維新は、だれでも書きたくなるドラマティックで、日本人の琴線に触

れる逸話に満ちているようです。あれから 150 年とはいえ、気が遠くなるほど遠い昔のことではないがかといっ

て、知らないことも多い。知れば面白い。以前は、このようなストーリーは忠臣蔵であったかもしれないが明治維

新と西郷さんを核とする人たちのドラマはこれからも増えることと思います。

現在、文芸春秋に伊集院静が「大獄」のタイトルで安政の大獄の連載を始めています。

いずれにしても、鹿児島は凄いということが喧伝されるの愉快的ことです。

次のようにNHKはホームページに載せています。

<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20160908/k10010675621000.html>

## 再来年の大河ドラマは「西郷どん」

再来年（平成30年）に放送されるNHKの大河ドラマは、鹿児島の下級武士の家に生まれ明治維新で大きな役割を果たした西郷隆盛の生涯を描く「西郷どん」（せごどん）に決まりました。

ドラマは、幕末から明治時代のはじめにかけて活躍した西郷隆盛が主人公で、タイトルの「西郷どん」は地元・鹿児島で親しみを込めて使われる呼び名です。

貧しい下級武士の家に生まれた西郷隆盛が、薩摩藩主・島津斉彬に見出され、度の結婚や2度の島流しなどを経て幕末の重要人物になり、明治維新を成し遂げる過程を描きます。原作は作家の林真理子さんが雑誌に連載している小説で、NHKの連続テレビ小説「花子とアン」などを手がけた中園ミホさんが脚本を執筆します。林さんは「彼をめぐる女性たち、流された島々を深く描くことによって、今まで誰も書かなかった西郷どんを作り上げているという自負があります」とコメントしています。

また、中園さんは「西郷隆盛という人物は謎に満ちています。一つ確かなのは、男にも女にも大層モテたということ。子どもも学者も侍も殿様も彼と触れ合い、語り合った者は皆、西郷に惚れた。

セゴドンという男の魅力に、女の視点で切り込みます」とコメントしています。大河ドラマ「西郷どん」

は来年夏から撮影が始まり、再来年、平成30年の1月から1年間、放送されます。

●大石から、参考にどうぞ。

2番目と3番目の妻はともかく最初の妻は余り詳しく記されていません。子供（子孫）がいなかったから？（せごどん）ではどんな登場の仕方をするのか、楽しみです。愛加那が主役妻

[\[ito.jimdo.com/%E8%A5%BF%E9%83%B7%E9%9A%86%E7%9B%9B%E3%81%AE%E5%85%88%E5%A6%B/\]\(http://saigo-ito.jimdo.com/%E8%A5%BF%E9%83%B7%E9%9A%86%E7%9B%9B%E3%81%AE%E5%85%88%E5%A6%B/\)](http://saigo-</a></p></div><div data-bbox=)

○西山さん

貴重な情報ありがとうございます。つづつ知らなかったことがわかって嬉しいです。今、大石くんのくれた西郷家の女たちを読んでいると中ですが、面白いですね。くもとたつお

○隈元さん

西郷隆盛の江戸住居。

東京都中央区日本橋人形町1丁目1番17号日本橋小学校（以前、東華小学校）に隣接。

廃藩置県を行うために上京してから征韓論に敗れて帰鹿するまでの約2年間住んだ。

前橋藩酒井雅楽頭の中屋敷であった一角約3,000坪を250円で払い下げで購入。

屋敷は広いが、門番を置かず、忠僕熊吉のほかには書生が10数名いた程度で豪壮なものではなかった。

ついでに、桐野利明の邸は、現在の旧岩崎邸庭園、以前は越後高田榊原家の下屋敷。

東京都台東区池之端1丁目3-4 5明治6年、西郷とともに帰鹿するまで住んだ。

その後、岩崎弥太郎が購入して本邸にした。

上野の不忍の池からほど近いところにあり、その脇の坂道は森鷗外「雁」に書かれ、さだまさしに歌われた無縁坂である。

私は、小学生の頃、加治屋町の叔母さんの家に遊びに行き、傍の甲突川の中に入って遊んだことがあります。

鍛冶屋町の郷中連中も夏にはそうだと思います。

○ドンピシャな情報ありがとうございます。今日、大石くんの送ってくれたものを熟読してみたいと思います。

私はこれまで「せごどん」の誕生地から住んだ場所を可能な範囲で行ったことはありますが、連れ合いのことについては全然調べてもいません。

今回これを機会に調べる楽しみができました。

加治屋町～上之園町の共研公園（住居跡碑）（加治屋町の家を売って借家住まい）（この時代に2回にわたり奄美へ島流し）～武の西郷屋敷跡（現在西郷公園）（この時代に西別府[鹿児島実業高校のすぐ近く]に野屋敷を造りここで農耕に励んだ）などを訪れて拙ブログに書いています。

奄美の龍郷町の住まい跡には娘一家が奄美在住時代に行きましたが、残念ながら写真を写していません。

その他、京都や東京時代の住まいは私の中では雲の中です。仮住まいだったのか、屋敷も構えたのでしょうか。

こうしてみると「せごどん」のことも特に私生活についてはほとんど知らないなので、そういう意味でもこれを機会に調べたら面白いだろうなと思っています。くもとたつお

○詳しい資料 ありがとうございます。

西郷さんの行動は、典型的なB型ですが、今まで、そう書かれたものを読んだことはありませんでした。

毛髪から血液型判定でそれが確認されたことは、私にとって新しいことでした。

ところで、海音寺潮五郎は、幼少の頃湯で、西郷さんの持ち物のようなでかチンを浮かばせているのを見たと書いています。

果たして、本当に大島で風土病によるものか？=====西山 和宏

**この上はpdfにてHPIにUP済です。**

○皆さま

西郷さあのご先祖様は 今私が住んでいる諫早一帯を治めていた領主様だったとのこと

急ぎ足で 廻ってみました。

添付の地図 左上ポツンと赤く記してあるのが我が家の位置

中央下部に赤い線で囲んであるのが 諫早市西郷町です。西郷家を今に伝える町名が残っているのです。

こんな狭い区域が西郷本家の所領だったわけではありません。

もっと広く、今の諫早領全てが西郷家の所領だった。

西郷町から小みぞみたいな川を渡り南側の小高い丘へ上がるところに石碑が立っています

この石碑 西郷本家？の滅亡を記した石碑なのです

そばに説明書きがありました。

陣の辻古戦場

永禄6年(1563年)島原より侵攻した有馬義貞の軍勢は キリシタン嫌いの諫早領主西郷純堯と前面の理津川を挟んで対戦し両軍激戦の末勝敗は決せず 有馬の軍は引き返した。

次いで天正15年(1587年)西郷氏は豊臣秀吉の薩摩攻めに参戦せず秀吉の怒りにふれて 諫早は竜造寺家晴(諫早家初代)の領するところとなった。

同年秋 高城(補足 諫早の中心本明川沿いにありました)を追われて西郷勢はここ扇島の丘陵を最後の決戦場として死闘を展開したが竜造寺に大敗し(西郷家は)滅亡した。

この付近一帯は2度にわたり諫早の命運をかけた攻防を重ねた戦国末期の古戦場跡である。

もちろん 我々が西郷さんがここを訪れたとの話は聞いたことがありませんが 西郷さんもどこかでご先祖さまのことを思い 諫早にも心を通わせられたかもしれません。

急ぎ足での報告です

肥前長崎と薩摩は幕末維新の時代に限らずいろんな点で接点が見えます。

陸路では遠く思っても海路では思わぬ近さを感じていました(長崎・串木野フェリーがあったときほんとにそう感じました) 薩摩と長崎の関わり ゆっくり調べてみれば まだまだ面白い話が出てきそうです。

金田一京助先生でしたか 方言の分布図?で薩摩 甌島 島原 長崎・西彼半島が同じ区域になっていたのを見ましたし島原半島深江あたりは全く鹿児島のアインションと言ってよいほどです。

自分もときどき出身を聞かれたとき島原とごまかすときがあります^^

西郷さんの奥さんの話から脱線しました 駄文読んでいただいて感謝です。

長崎 諫早 森永 9月12日



●興味深い歴史探訪ありがとう。とても面白かった。八期の『せごどん』探究も楽しいものです。

確かに権力者によって分割された地理上の藩、県で私たちはなにになに人と区別しますがもっと昔の「なにになに族」にさかのぼると有明海(九州の西の海)を囲む国々は人の交わりが濃ゆかったのでしょう。諫早に西郷町があるとは初耳でした。西郷家が熊本(肥後)菊池氏一族であるとは書いてありましたけど。

又新情報を待っています。 大石

● 今月18日(土)タイミングよく、今回の『西郷どん』の原作者

林真理子氏の「歴史小説講演会」がけんみん交流センターで開催されます。聞きに行こうと思っています。

○森永さん

西郷家が熊本の菊池郡の菊池氏を祖とするということは知っていましたが、大石くんの「西郷家の女性たち」で諫早と西郷家とのつながりを知り、更に貴兄のメールを見て驚きました。

平成28年度  
海音寺潮五郎記念文化講演会

講師 林 真理子 氏  
(第94回直木賞受賞)  
「歴史小説を書く」



講演概要  
1954年山形県生まれ。日本大学芸術学部国文学科卒業。二児の母。1992年『セーラー服と死神』でデビュー。1995年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。1997年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。1998年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。1999年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2000年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2001年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2002年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2003年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2004年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2005年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2006年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2007年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2008年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2009年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2010年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2011年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2012年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2013年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2014年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2015年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2016年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2017年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2018年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2019年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2020年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2021年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2022年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2023年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2024年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2025年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2026年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2027年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2028年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2029年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。2030年『セーラー服と死神』で第94回直木賞受賞。

日時 平成28年10月6日(土) 午後1時~午後3時45分  
(開場/午後1時 開演/午後1時30分)

場所 けんみん交流センター

定員 600人

入場無料

申込方法 講演の申込用紙により講演センターに提出するか、郵送、FAX、メール、又は電話で申し込んでください。

問合せ先 けんみん交流センター 企画課 電話 099-224-9974 FAX 099-224-9924  
メール kishou@kenmin.jp

ウィキペディアによると、西郷姓は日本各地にいろいろな流れの家系があるようですが、西郷隆盛は森永さん在住の菊池～肥前西郷氏(諫早)の流れそのもののようです。しかも、町名にまでその「西郷」が残されて、史跡も残されているということで驚きです。説明文と写真まで添えていただき興味深く見ました。

私も3年間住んで、仕事でも行っていた諫早の地にそういうものがあったということは全然知りませんでした。いつか改めて行ってみたいものです。

ビッグニュースをありがとうございました。

くまもとたつお

9月14日



○明治維新150年 ついて いろいろな 書物も発行され、われわれ 薩摩人としては

西郷さんは 偉い人と崇められています が 日本のすべての人が そうであったということではないので "明治維新"について勉強したいと思います。

隈元さん、森永さん よく現地へ赴き 調査されておられるようです。

長崎の西郷家とは 300年の時代差 西郷どんのルーツと考えるとよいのでしょうか。 木場

○大石様

歴史を辿るとロマンを感じます^^ そして 昔々のことが今にも尾を引いていること 多々あり です。

佐賀と長崎 しっくりこないことがあるし 大村と諫早 こもしっくり来ないところがあります。

選挙でもろに顕在化することあり です^^ 秋 八期喜寿クラス会 楽しみです。 長崎 諫早 森永

○「海音寺潮五郎記念文化講演会」とは羨ましい限りです。

林真理子の講演も楽しみです。

海音寺潮五郎の文章は教養に溢れ筋立てがよく、少々長いもの例えば、「孫子」でも読み終わるのが惜しい気がします。

海音寺に励まされて作家の道を歩くことになった司馬遼太郎との違いは漢籍の素養の差によるものだと思います。西郷さんのことは、海音寺が最も詳しくその心情をよく理解していると思います。 西山

○大石さん

こんにちは いつも 明治維新150年関連 資料送っていただきありがとうございます。

喜寿の集いも 一か月を切りました。

さて、あなたからの「さつま人国誌」、良迫英光観光プロデューサーの資料、明治維新150年記念事業などなど 読む資料たくさん情報流していただき、ありがたく思っています。

西山さんからもいろいろと情報ながしていただき、彼の「留魂碑」も 43ページコピー取って読んでいます。

彼が 勧めた鹿児島県の記念事業 「明治維新150周年と郷土の人々」まず概要版 をまず読んでみました。

西郷隆盛について 海音寺潮五郎著が 良いように思われるので これも 手元にありますが ゆっくり読もうと思います。

まあ いままで 鹿児島県の歴史について無知でしたので 今後 ゆっくり 勉強していきたいと考えます。

(気候も すこし 涼しくなったので 書物を読んでみようかなあ・・・という気になってきたようです。)

18年 大河ドラマに「西郷どん」に決定し、東京西山さんの「留魂碑」、九州森永さん、鹿児島隈元さんなどの資料など参考にし、「西郷どん」ルーツおよび上記鹿児島県庁の記念事業誌 「明治維新150周年と郷土の人々」も読まねば・・・と思っている次第です。



いつも 資料、情報送っていただきありがとうございます。 西山さんの博識には 感心する次第です。

木場 祥雄

○